



～風しん排除のために あなたにできること～



<なぜ、風しんを排除する必要があるの？>

妊娠早期の妊婦が風しんにかかると、生まれながらにして目や耳、心臓に障害をもった子供が生まれることがあります(先天性風しん症候群)。生まれてくる赤ちゃんがそのような生まれつきの病気にならないよう、妊婦への感染を防止することが重要です。

厚生労働省では『先天性風しん症候群の発生をなくすとともに、2020年度までに風しんの排除を達成する』ことを目標としています。

<風しんはどこで感染するの？>

風しんは飛沫(咳・くしゃみ等唾液のしぶき)でヒトからヒトへ感染します。感染すると、発熱、発疹、リンパ節腫脹といった症状が出現し、大人は子供より重症化することがあります。

発疹が出る前後約1週間は人に感染させる可能性があり、特に学校、職場、公共交通機関などの人が集まる場所で感染が拡大する恐れがあります。

<できることって？>

2018年の風しん届出患者のうち男性が約8割、中でも30代から50代の男性が多いことが指摘されています。原因として、この世代は風しんの抗体価が低く免疫力が弱いこと(特に39歳～56歳の男性は定期接種を受ける機会が一度もなかった為)、職場など感染が拡大しやすい環境にいる方が多いことが考えられます。

- ① **昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性**は風しんワクチンの**定期接種**の対象となります。自治体から無料クーポン券が届いたら、**抗体検査**、**予防接種**を受けましょう。(2019年度は昭和47年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性に送付。今年度送付されない定期接種対象者も市町村に希望すれば発行されます。)
- ② 妊娠を希望している人や、妊婦の同居家族も抗体検査を受け、抗体価が低い場合はワクチン接種を検討しましょう。女性は接種後2ヶ月程度避妊が必要です。
- ③ 体調がすぐれない場合には無理して外出しない、どうしても外出が必要な場合には咳エチケットを徹底する、風しんを疑う症状(発熱、発疹など)が出現した際は医師に相談しましょう。

<参考文献> 厚生労働省ホームページ
国立感染症研究所ホームページ